

学友会

題字：書道部 遠藤 俊太郎
(理学部4年)

| P.1 | P.2 | P.3 | P.4 |
|---------|---|---|---|
| ●「一歩前」に | ●縁の下の力持ち!~学友会文化部~ ●震災を乗り越えて~邦楽部~ ●ともに輝こう☆~男声合唱部~ ●初心者大歓迎!~囲碁部~ | ●第50回七大戦開幕!~負けるな東北!!~ ●頑張る人を応援します!~応援団~ ●目指せ全国!~準硬式野球部~ ●「より速く、より遠く、より高く」~陸上競技部~ | ●復興支援 ~子どもたちとの交流を通して~ ~バドミントン部~ ●ボランティア活動参加学生の皆さんに ●学友会カレンダー |

「一歩前に」

末光 眞希

今年の5月20日(金)夜、ニューヨークのカーネギーホールで「みちのく震災支援日米合唱チャリティーコンサートat カーネギー」が開かれました。日本からの代表は、仙台市を拠点とする混声合唱団「萩」。私はこの合唱団の団長を務めました。

1年半前からの企画でした。学生時代所属していた男声合唱団の先輩である白田正樹さんから、自分たちに音楽の喜びを伝えてくれた岡崎光治先生に恩返しをしたい、先生を中心とする合唱団を招いてカーネギーで日米合唱祭を開くから団長をやりなさい、と言われたのです。有無を言わさぬ強引さでした。1年前から練習を始め、あこがれのカーネギーホールで歌うことを皆で夢見つつ、120名の団員が練習を重ねてきました。

3月11日、すべてが変わりました。震災後1週間経っても安否確認のできない団員がいました。こんな状況でNYに行けるのか、行ってよいのか!誰もがそう思いました。延期は物理的に不可能でした。ここで延期することは、合唱団「萩」がこの一年間積み重ねてきたことを一度ゼロに戻すことを意味していました。

そんな中、一人の団員(この方も諸君の先輩です)からメールが来ました。石巻の医師でした。目の前で車が流されていくのを呆然と見送りながら、丸二昼夜、完全に孤立した病院で450人の患者・スタッフと共に地獄の苦しみを体験されたその方が、医師として被災地石巻の復興に尽力しつつ、なおNY行きの希望を訴えておられました。微かな光が見えてきました。ことは単にNYに行くかどうかの問題ではない。私たちは何のために合唱をやっているのかが、今、問われていると感じました。もし歌うことが私たちが生きていることの証であるなら、今、歌わずしていつ歌うのか。理由はまったく分からないけれど、私たちは生き残り、生かされていると。3月17日、私たちは予定通りNYカーネギーホール公演を行うことを決定し、その意思をNYコンサート実行委員長白田さんに伝えました。

すべてが、もう一度、変わりました。「合唱祭」が「チャリティーコンサート」になりました。NY行きの新しい使命が見えてきました。私たちの歌う歌の新しい意味が見えてきました。(私たちは、こんなことが起こるとは露知らず、「海の詩」を選曲していたのです。)自分たちの合唱団の名前さえ、新しい意味を持ち始めました。萩は869年に起こった貞観津波で荒土と化した宮城野に、震

災後、最初に咲き誇った花でした。その美しさが都に伝えられ、古歌に詠われるようになりました。「萩」は再生・復活のシンボルだったのです。

こんな時期に休暇を取っての渡米です。まわりの誰にも告げず、ひっそりと出国しました。公演前日の19日に到着し、その足でさっそく練習しました。ところが練習会場に朝日新聞、共同通信社、NHKの取材陣が来ていました。もう逃げられない!と観念した瞬間でした。カーネギーホールは満員。2400人が来場くださいました。カーネギーに30年勤める職員の方が、「自分が知る限り、アマチュアのコンサートで5階のバルコニーを開放したのは初めてだ」と話しておられました。最初の「君が代」演奏で、最前列の日本の若者たちが涙ぐんでいました。これから始まるのは普通のコンサートではないと感じました。最後は全員総立ちのスタンディングオベーションをいただきました。

公演後、建物を出てきたら、日本のテレビクルーたちに取り囲まれました。取材するメディアの方たちご自身が深く感動しておられることがよく分かりました。私たちの公演が、今回の大震災を深く悲しみ、しかもこの気持ちをどうしたらよいか分からないでられるアメリカの方々、とくにアメリカで日本を背負ってがんばっておられる日本の方々に、日本は大丈夫だよ!というメッセージを伝えることができたと感じました。

こんな結末が待っていると知って行動してきた訳ではないのです。一つだけ言える事は、「一歩前に進もう」——それだけをいつも考えて歩いてきたということです。「とても…」と思うしかない毎日です。しかし「それでも…」と、勇気を出して一歩を踏み出すと、想像もつかないことが起こるのです。計算しているうちは何も起こりません。これは還暦も近くなった私が、今回あらためて学んだことでした。



筆者紹介 末光 眞希
電気通信研究所教授(工学博士)
学友会文化部長(2008.4~)

文化 部



CULTURE

縁の下の力持ち!学友会文化部!

学友会文化部

学友会文化部常任委員長 2年 高橋 沙織 (法学部)

東北大学の学友会のうち、文化系に属する団体を統括するのが私たち学友会文化部です。主な活動としては、年度ごとの文化部所属団体への予算配分、新入生歓迎誌「北杜」の発行、文化部の表彰制度である、「石田杯」及び「海野賞」の選考・表彰、そして春と秋の文化フェスティバルの主催など、各部の支援的な活動を行っています。秋の文化フェスティバルでは文化系の団体が百周年記念会館萩ホールに一堂に集まり、音楽系や展示系など個性豊かな発表を行っています。また一昨年から始まった文化部講演会は、講師として東北大学の教員や学生を講師として、自分の分野を熱く語っていただくという企画で、学内外から幅広い層の方々から聴講に訪れ、好評をいただいております。



22年度文化フェスティバル

文化系団体を支援していくのはもちろん、これからは文化部自らも積極的に活動を行っていきたく思います! 私たちの活動に興味を持った方は、是非ホームページをご覧ください!

東北大学学友会文化部ホームページURL (http://www.geocities.jp/tohoku_uv_bunkabu/)

震災を乗り越えて

邦楽部

邦楽部2年 佐藤 真奈美 (文学部)

東北大学学友会邦楽部は、毎年5月に行う三曲発表会と11月に行う定期演奏会が主な活動内容となっており、その他演奏依頼や定禅寺ジャズフェスティバルへの参加などもしています。部員のほとんどが邦楽未経験者ですが、先輩方の指導のもと日々練習に励んでいます。一般客を招待する演奏会は、部活の一番の活動目標であり、毎回若い方から年配の方まで幅広い年代層のお客さんが来てくださり、お客さんの中には毎年楽しみにしていると言ってくださる方もいて、嬉しい限りです。



今年は震災の影響で会場の確保にも苦労しましたが、無事に7月17日に川内マルチメディア教育棟で行えることが決定しました。例年より2ヶ月も時期がずれてしまい、練習時間や場所の確保など以前にはいかない事もありますが、部員一同、日頃の成果を披露し、邦楽の楽しさを少しでも多くの人に伝えられるよう一生懸命練習に励んでいます。

ぜひ、ご来場ください!

ともに輝こう☆ 男声合唱部

男声合唱部3年 松野 良平 (農学部)

こんにちは、東北男声合唱部です。年に1回開かれる定期演奏会に向けて日々活動しています(写真は去年の定演のものです)。現在、合唱は昔ほど人気がなくなり、軽音楽などが流行ってしまっています。わが団は、それに加えて男声合唱の過疎化にも苦しみ(男声よりも混声がいらいらしいです(涙))、現役部員が11人とギリギリの人数で活動しています。4年生など就活で来られない先輩もいるので、実際は7人くらいで活動しています。

確かに少人数です。しかし、少数だからこそ磨かれる何かがあると私は思います。少人数だからこそ、他人を頼るのではなく自分を頼ろうとする責任感や向上心、与えられる膨大な仕事をこなせるようになる手際力など。それは、人それぞれ異なりますが、その何かを求めて私たちは日々活動し、成長しています。

あなたも、そのダイヤを磨きにきてはいかがでしょうか。私たちはいつも磨き磨かれあう準備はできています。



初心者大歓迎! 囲碁部

囲碁部2年 岡田 穂子 (薬学部)

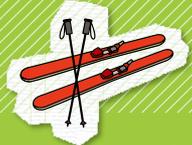
囲碁部は初心者と有段者が交流し、互いに棋力を高めあうことができる場です。部費はタダ、決められた活動日は無く、好きな時に部室に来て、気ままに囲碁を打っています。初心者には、有段者の先輩が一から教えてくれるので、いままでも碁石を触ったことが無い人も大歓迎です。頑張れば在学中に有段者になれます。全国大会にだって出られる(かもしれない)!

大会は、学生本因坊戦・学生十傑戦・学生王座戦、学生囲碁選手権、女子学生本因坊戦などの全国大会があり、これらに出るための東北地区予選があります。地区予選には学生なら誰でも参加できます。また、県内・市内の一般の大会は、ハンデ戦もあるので級位者でも気軽に参加できます。

ちょっと囲碁打ってみたいなあ、そういえば『ヒカルの碁』読んでたっけ、そういう気軽な気持ちで構わないので、平日、講義が終わるころ、サークル棟3階、308号室のドアをノックしてみてください。個性的な先輩がお出迎えいたします。



体育部



SPORTS

第50回七大戦開幕! ~負けるな東北!!~

○ 常任委員会

常任委員会 3年 佐藤 春樹 (理学部)

全国七大学総合体育大会、通称七大戦は旧帝国大学(東北大・北海道大・東京大・名古屋大・大阪大・京大・九州大)の七大学で行われる、全41競技の総合体育大会です。各競技ごとの順位に応じて点数をつけ、全競技の合計得点で七大学の総合順位を競います。

この七大戦は、学業とスポーツの両立を旨とするわれわれ旧帝大学が競技を通じて、互いの競技レベルの向上と交流の促進をはかるものであり、毎年、各大学の誇りをかけて熱い戦いが繰り広げられます。

今年度、東北大学は、3月11日の東日本大震災の影響により、多くの部が十分な練習時間・場所の確保に苦慮し、参加すら危ぶまれた部もありました。このような状況から、七大学の代表者会議において、震災の被害が大きかった東北大が不利であることを理由に、今年度については総合順位をつけるべきではないとの意見が挙がりました。しかし、東北大学学友会体育部は震災を理由に勝負することから逃げたくありませんでした。体育部の総意で総合順位をつけるよう強く主張した結果、七大学の代表者会議において、例年通り総合順位をつけての開催が決定されました。

東北大は自ら総合順位をつけることを望みました。もう後には引けません。今まで9度の総合優勝をしている東北大学。優勝するだけの底力がないはずはありません。記念すべき第50回大会において、10度目の総合優勝を果たすべく、体育部一同、北海道において、全力を尽くしたいと思います。皆さん、応援よろしくお願いします!!



6月21日に開催された七大戦学友会体育部壮行会

頑張る人を応援します!

○ 応援団

応援団 2年 門脇 恵利香 (文学部)

押忍!東北大学学友会応援団です。私たちは、今年度新たに9名の仲間を迎え、計32名で「頑張る人を応援します」というスローガンのもとに日々活動しています。応援団というと、学ランを着て腕を振り大声を張り上げるというイメージが一般的だと思いますが、それだけではありません。前線に立って団を統率するリーダー部、笑顔で選手や観客を鼓舞するチアリーダー部、楽器を使い応援を一層華やかにする吹奏部の、三部によって構成されています。

応援に行く競技も、野球、アメフト、バレー、サッカーなど様々です。

他にも、昨年度は学祭、ホームカミングデー、受験生激励と、数え切れないほど多くの場で演舞をさせて頂きました。

応援団の魅力はなんといっても、応援を通して他の部活の方や他大学の方、OB・OGの先輩方と交流する機会が増えることです。その出会いは、大学生活の中でとても大きな意味を持つと思います。また、団員のほとんどが初心者なので、安心して始めることができます。

興味のある方は気軽に遊びに来てください!



目指せ全国!

○ 準硬式野球部

準硬式野球部 3年 沼崎 貴智 (文学部)

私たち準硬式野球部は、全国大会出場を目指し日々練習しています。「準硬式」という硬式と軟式の中間のボール、つまりラバーで覆われた硬いボールを使用して野球をしています。私たちの部は高校の時に硬式野球をやっていたという人はもちろん、軟式野球をやっていた、または野球をやるのは小学生以来という方まで広く在籍しています。

練習は基本的には週3回、火、水、金曜に行っています。週末には練習試合や、大会に参加したりしています。前年度の秋季リーグ戦においては2位になるなど結果も出てきており、現在は夏の7大戦に向けて練習しているところです。

部活動と私生活のメリハリはきちんとついておりアルバイトなどをすることも可能ですし、先輩との垣根も高くなく居心地の良い部活です。もし少しでも興味があれば気軽にお越しください。部員一同心よりお待ちしております。



「より速く、より遠く、より高く」

○ 陸上競技部

陸上競技部 2年 瀧澤 大地 (工学部)

陸上競技部は部の悲願である七大戦優勝と全日本大学駅伝の出場を目指して練習に取り組んでいます。個人競技ではありますが部員全員が支え競い合いながら己の力を磨いております。ゆえに決して一人で戦っているのではなくチームとして戦っています。

練習は短距離・中距離・長距離・跳躍・投擲の5つのパートに分かれて行っています。各パートではパートキャプテンが立ててくれたメニューを元に練習を行います。練習日以外にも個人的に練習を積み自己鍛錬を行う部員も多数います。自分の記録を伸ばすことに貪欲な集団と断言できます。

「より速く、より遠く、より高く」という三秀を実行する陸上競技部の活躍をご期待ください。



復興支援 ～子どもたちとの交流を通して～ バドミントン部

3月11日の大震災以来、宮城県内の多くの運動施設は避難所等として利用され、スポーツ少年団や小・中学校の部活動は活動が困難な状況が続いています。そのようななか、4月16日に比較的被害の少なかった本学川内体育館において、本学学友会バドミントン部は、県内の小・中学生のバドミントン選手と一緒に合同練習会「頑張れ宮城のジュニアバドミントン」を開催しました。

当日は、60名もの小・中学生が参加し、体育館は子ども達の大きな声と、思い切りシャトルを打ち合う元気な笑顔で一杯になりました。

この取組みは、6月5日に第2回目が催され、7月31日には第3回目の開催が予定されており、今後も継続して行われるとのことです。



ボランティア活動参加学生の皆さんに

各地に甚大な被害をもたらした、3月11日の東日本大震災発生以来、本学学生の皆さんは自主的に様々なボランティア活動を行ってこられました。その活動は、本学図書館の落冊の片づけのほか、山元町、気仙沼、石巻などの被災地支援など、学内外を問わず、広く、様々な形で行われてきました。

災害時にボランティア活動等を行ったことにより、からだや気持ちに様々な変化が起こる「惨事ストレス」と呼ばれる症状があらわれることもあります。寝付けない、落ち着かない、無気力感を感じるなどの場合は、ひとりで悩まずに友人や家族のほか、学生相談所や保健管理センター等に相談してください。

このような、ストレス等による症状のほか、活動中のけがにより、破傷風に感染するケースもありますので、瓦礫撤去などの活動を行う際は、必ずワクチン接種をして活動に参加してください。

今後もボランティア活動を継続する学生の皆さんは、以上のことに十分注意して、安心・安全にボランティア活動に参加してください。

学友会カレンダー

GAKUYUKAI Calendar

7月

- 2日 七大戰開会式
北海道大学クラーク会館
- 10日 体育部 第37回北雄杯駅伝
川内～青葉山
- 17日 邦楽部 第42回三曲発表会
川内マルチメディア教育棟
- 27・28日 オープンキャンパス
- 31日 バドミントン部
頑張れ宮城のジュニアバドミントン
川内マルチメディア教育棟

8月

- 26～28日 書道部 旧帝典
仙台メディアテーク
- 未定 演劇部 新入生公演
- 未定 仙台六大学野球秋季リーグ開幕

9月

- 18日 第18回東北マンドリンフェスティバル
盛岡市民文化ホール 13:00～
- 24日 七大戰閉会式 北海道大学クラーク会館
- 未定 体育部F.A.(フレッシュマンズ・アッセンブリー)

10月

- 8・9日 104周年ホームカミングデー
秋の文化フェスティバル

11月

- 3～5日 '11東北大学祭 [LINK TONPEI]
- 未定 邦楽部 第56回定期演奏会

○7～12月 中旬 報道部 東北大学新聞発行予定 (7月はオープンキャンパス号も発行。8、9月は休刊。)

学友会では、いろいろなイベントが目白押しです。

一般参加・観覧可能なイベントも多数ありますので、学生、教職員の皆さまはもちろん、OB・OGの皆さまも是非足を運んでみてください!

東北大学
学友会 No.03

東北大学ホームページ 学友会・サークル URL
<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/studentlife/02/studentlife0201/>
トップページから「教育・学生支援」→「学友会・サークル」の順にリンクをたどってください。

学友会費納入のお願い 学友会は皆さんの会費で支えられていますので、学友会費の納入にご協力をお願いします。

問い合わせ先

022-795-3983 (活動支援係:川内北キャンパス管理棟1階①番窓口)